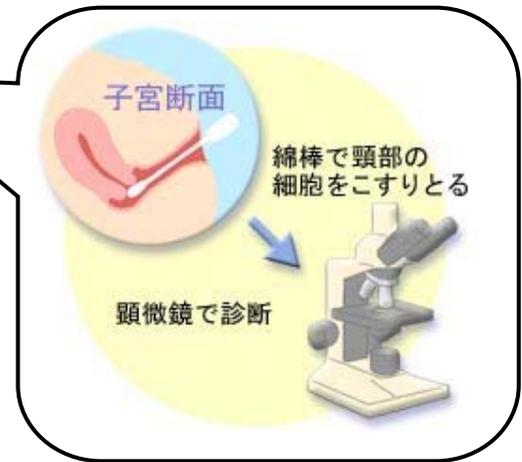


子宮頸がん検診はこんな検診



検診車(バス)の中で検査をします

子宮頸部の表面を綿棒のようなものでこすり取り、細胞を顕微鏡で調べます。受診者のうちがんが発見されるのはごくわずかですが約1%に精密検査が必要となり、そのうちがんが発見されるのは約10%弱と非常に効果的な検診です。



異常のない方は、約4週間ほどで結果がご自宅に届きます。

精密検査が必要な方は保健センターよりご連絡しますが、「精密検査＝がん」ではありません。「念のためにもう少し検査をしましょう」という意味ですので、後回しにせず早めに医療機関を受診してください。

異常のなかった方も、年に一度は定期的に検診を受けるようにしましょう。

子宮頸がんの発生には、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が関連しています。性交経験があれば、誰でも感染する可能性がありますが、HPVに感染しても9割以上が数年のうちに免疫力でウイルスを追い出し自然にHPVが消えます。しかし中には、持続的に感染し「異形成」という細胞の変化が続くと、数年から十数年かけて子宮頸がんを発症すると言われています。



日本では、子宮頸がんが1年間に約2,500人が亡くなっています。し子宮頸がん検診で発見されるがんの60%以上は、粘膜のごく表面の一部にとどまるごく早期の子宮頸がんです。早期発見のために定期的な検診を受けましょう。